

監査公表第1号

地方自治法(昭和22年法律第67号)第199条第5項の規定に基づき随時監査(工事監査)を実施したので、その結果を同条第9項の規定により次のとおり公表する。

令和4年(2022年)3月18日

彦根市監査委員 若林 忠彦

彦根市監査委員 杉原 祥浩

随時監査（工事監査）結果

1 監査の対象工事

(仮称)彦根市新市民体育センター建設工事(建築工事)	5,623,200,000 円
(仮称)彦根市新市民体育センター建設工事(電気設備工事)	803,000,000 円
(仮称)彦根市新市民体育センター建設工事(機械設備工事)	1,064,800,000 円

2 監査の期日

令和4年2月1日

3 監査の方法

令和3年度において施工中の建築・土木工事の中から抽出した上記の工事について、その設計、施工、監理等が、適切かつ効率的に執行されているか否かについて、関係書類を調査するとともに、リモート・オンライン会議により各段階における技術的事項の実施態様について関係者に質疑応答を行った。

なお、実施に当たっては、協同組合 総合技術士連合との工事技術調査業務委託契約に基づき、各工種別に専門の技術士の協力を求め監査した。

4 監査の結果

本工事技術調査の結果、3工種共に、計画・設計・積算・契約・施工・維持管理等の各段階において、工事関係書類の整備状況を含め、技術的事項の実施態様は総括的に良好に執行されていることを確認した。

工事進捗状況について、建築工事の令和3年12月31日現在の実施進捗率は73.0%であり、計画進捗率の73.7%に対して、概ね計画通りの施工が図られ、追従する電気設備工事や機械設備工事においても同様に良好に執行されているものと認められた。

建築工事における実施設計では、地盤の液状化に配慮した設計がなされているほか、

大面積の外壁板の仕様変更や自然木質材料の使用範囲の見直し等により約2億円のコスト低減を図っていることは評価できる。また、積算に関しては複数人でチェックし、入札時には400件を超える質疑事項に対応しているが、本件のような大規模で複雑な構造物における設計図書の適否や内容の充実度の判断、積算精度の確保には一定のスキルが必要となるため、監督職員のスキルアップと外部ノウハウの活用を含めた積算および設計図書の適否判断の仕組みを整備することが重要である。なお、施工については、品質と工期、コストを重視した監理がなされ、竣工後に頻繁に問題となる防水と仕上げの品質に対して配慮されており、目視できない部位の品質確認写真等からも出来栄への配慮が確認できた。

基本設計は、プロポーザル提案に基づき外部識者も加えた審査委員会で評価し、妥当な設計者選定がなされたものであり、電気設備の設計においてもその主旨が適切に反映され、利便性・機能性を備え、かつ省エネとコスト削減を図られていることを確認した。照明設備・音響設備は様々なイベントやシーンで幅広く対応できるようきめ細かに設計されており、耐震性についても十分配慮され、有事の際の避難場所としての非常用発電機の容量等も考慮されていた。また、設計単価に彦根市単価(RIBC)を採用していることも作業効率アップと個人差の発生を防止するものであり、高く評価できる。

さらに、機械設備においては、持続可能な社会形成に不可欠な省エネや脱炭素へ向けた機器が採用され、アリーナの空調方式について観客席を局所的に空調することで大空間における空調の高効率化を図っていること等が確認できた。また、消防設備では機械・設備の故障や人的ミスの発生を前提に設計段階で事前に対策を講じるフルプルーフやフェールセーフ機能が考慮されており、概ね有効であると判断できた。電気設備と同様に、有事の際の防災拠点施設として、急激な施設利用者の増加にも一定対応できるよう給排水や空調設備の構築もなされていた。

全般的事項としては、定例会議等の議事録および現場報告書の作成に関し、発言者や承認者などをさらに明確に記載し、責任の所在や意思決定内容等が容易に把握できるよう検討されたい。内容により報告すべき職階等も見直すなど、今後の工事執行がより慎

重に、かつ建設的に遂行されることを望むものである。

(仮称)彦根市新市民体育センター整備事業においては、令和7年度に開催予定である第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の主会場整備に伴う移設決定により旧市民体育センターを解体したことから、体育施設としての空白期間が生じており、本市スポーツ振興の拠点施設として市民からも早期完成を切望されている。

このような中、令和4年12月の供用開始に向け各整備工事も大詰めを迎えており、令和4年1月には、彦根市文化スポーツ部指定管理者候補者選定委員会において、指定管理者候補者の選定も成されたところである。

本事業について、監査を通じ着実な進捗を確認できたため、引き続き安全管理等に配慮しつつ無事故・無災害で計画通り竣工し、建物のコンセプトであるスポーツと文化が融合する市民交流拠点として、市民に親しまれ、スポーツから文化活動まで様々な活動により賑わいと交流が創出される施設になることを期待する。

なお、期待する効果を得るにはハード整備後のソフトの充実と市民への積極的なPRが肝要である。今後は、指定管理者を含めて事業効果の最大化へ向け、施設運営方策や事業企画に対しても意を尽くされたい。

【オンライン工事監査実施状況】

